

宗祖降誕会 2021.5.21(金)

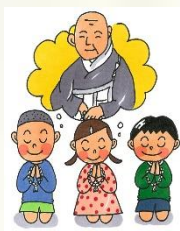
5月21日は親鸞聖人の降誕会。お生まれになったことをお祝いする日です。仏さまの教えを私たちにわかりやすく伝えて下さった親鸞さまです。私たちもこの日、感謝しお念仏申す一日を過ごさせていただきました。

親鸞聖人のご誕生をお祝いするケーキを作ってお供えしました。



寺族皆で揃って、『正信念仏偈』のお勤めをしました。

プラス、お寺のわんこの阿弥もお勤め中は心静かにお参り致します。





降誕会について、義本弘導先生がわかりやすく書かれていますのでご紹介いたします。



親鸞聖人は、今から818年前の1173年にお生まれになっています。しかし、お生まれになった日まではわからないので、本願寺では、毎年5月21日を親鸞聖人のお誕生日として、降誕会を勤めます。

降誕会というのは、降りるの降と誕生の誕と書きます。なぜ誕生と言わずに降誕というのでしょうか。

誕生の誕の字を辞書で調べてみますと、うまれるという意味のほか、いつわる・いつわりという意味があります。何か変な感じですね。人が生まれることを誕生といい、おめでたいことだというのに、そのもともとの意味がいつわりというのですから。

ある先生にうかがいますと、

「それでいいじゃないか。うそ、いつわりだらけの世の中に生まれてくるのだから。」とおっしゃいました。

なるほど、そういわれるとそうです。私たちはよく真実という言葉を使いますが、それらは皆、私の都合に合わせた真実です。ですから、真実がいくつもあることになります。そういう自分の都合中心で生きている私を、如来さまは、煩惱具足の凡夫と悲しまれ、真実に生きてくれよと南無阿弥陀仏と喚んで下さっているのです。そういえば、親鸞聖人は「歎異抄」に、

「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもてそらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします」

とおっしゃっています。

この世の中には、うそいつわりばかりで真実はない。ただお念仏だけが真実なんだと。しかし、親鸞聖人といえども、最初からこう言われたのではないでしょう。お念仏という阿弥陀如来さまの真実に出遇われたからこそ、こう言えたのです。

そして、親鸞聖人は、私にお念仏こそが真実ですよと教えて下さいました。私は、親鸞聖人がおられなかったら、今生においてお念仏に出遇うことはなかったでしょう。そうすると、親鸞聖人は、阿弥陀如来さまの真実であるお念仏を伝えるために、うそいつわりのこの世界に降りてきて下さったのでしょう。だから、誕生と言わずに降誕というのです。

『聞法(1991(平成3)年7月13日発行)』(著者：義本 弘導)より

義本弘導先生にはまた9月の秋季彼岸会法要にてお取り継ぎいただきます。どうぞお誘い合わせの上、御参詣下さいますよう御案内申し上げます。

